

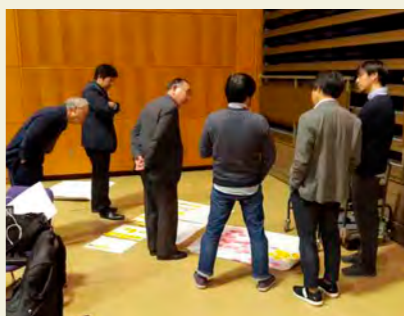
編集長の声

ワールドカフェ形式の対話に見る

先ごろ町の戦略会議が10月から、また、まちづくり委員会定住部会開催の未来の小布施講演会などで、統計情報や話し合いのテーマを厳選し、5、6人から10人程度の話し合うワークショップが見られた。

近年、町中の会議という自治会や自治会関係機関の議事の進行スタイルが固定してきており、新たな視点を積極的な話し合いのスタイルに変わってきている。こうした流れも小布施町ならではの思いがあると思う。

高齢者に見られるサロンでは屈託のない楽しい会話が話題を持ち回りができることがある。



その年代が作り上げたスタイルがよいと思うが、大事なこれからの住民の意見交換の方式も一段と変化しているように感じます。



あなたも「まちづくり委員会」に参加しませんか!

様々な立場の人が自由に意見を交わし、住みよいまちづくりを考え実践する場として、平成20年にスタートしました。「安全」「環境」「福祉」「交流」「共育」「定住促進」の6つのテーマごとに部会を設け、月1回くらいのペースで集まって活動しています。そんなまちづくり委員会にあなたも参加してみませんか。参加をご希望の方は、下記事務局へお申し込みください。

小布施まちづくり委員会事務局

Tel:026-214-9102
Fax:026-247-3113
E-mail: kouryuu@town.obuse.nagano.jp

編集後記

- ・第8回おぼせ未来共育会議は2月11日(火・祝)です。お待ちしております。(市村/共育)
- ・今年、災害身近な所で起き、改めて防災訓練必要だと思えました。(塩尻/安全)
- ・今年は色々ありましたが、来年は絶対良い年でありますように！(花村/福祉)
- ・なかなか寒くならないですね。ドカ雪も困りものですが年の瀬を感じる季節になって参りました。寒暖の差も厳しくなっています。皆様、自愛下さいませ。(見海/交流)
- ・長野県気候非常事態宣言！環境に配慮した小布施町に！(工藤/環境)
- ・平成から令和へ、千曲川越水の被害に心を痛めた年。平穏な毎日が送れる来年になることを祈る年の瀬です。(安財/広報)
- ・「安全」に対する心構えが、今回の被害で大きく変化した。千曲川、松川での氾濫にも備えたい。小布施町が抱える大きなテーマである。(内山/広報)
- ・一生に一度しかない。想定外洪水災害！百年、千年に一度より明日来る準備を。(吉田/広報)
- ・今年は暖冬という予報ですが、やはり寒い時は寒いですね。。。(奥田/広報)

第24号 小布施まちづくり委員会広報誌 2019(令和元)年12月20日発行

発行 小布施まちづくり委員会
会長 元田和行
事務局 小布施町役場企画政策課 定住交流係
編集 小布施まちづくり委員会広報委員会

2008(平成20)年12月18日創刊
©小布施まちづくり委員会

小布施まちづくりリポーター

E-mail: kouryuu@town.obuse.nagano.jp HP: http://www.town.obuse.nagano.jp/

こうすればいい!!

人口減少社会で幸せな未来を手にするために

2019年11月23日(土) 小布施町公民館講堂開催

◎基調講演 農村の未来は明るい! こうすれば大丈夫!

講師 藻谷浩介さん 株式会社日本総合研究所 主席研究員

◎ワークショップ(意見交換会)

イメージで物事を判断することの危険性を強く戒めることから今日の講演が始まった。イメージよりも現実の持論でもある。

講師は



イメージで物事を判断することの危険性を強く戒めることから今日の講演が始まった。イメージよりも現実の持論でもある。

講師は

市内三二〇〇市町村を始め海外九十九か国をすべて自費で踏破された藻谷浩介さん、縦横無尽の展開で私も聴衆を一寸たりとも飽きさせることなく、充実した一時間半にわたっての講演であった。

まずは世界地図を広げ、

如何にわが国が緑に恵まれた国であるかを再認識させてくれた。韓国や中国と比較しても緑が圧倒的に多い。講師が自身から発せられる折々の質問をタイムリーに挟まれての講演も聴衆をくぎ付けにした。質問の具体例として、千年後の人類社会に残るものは何か? その問いかけもあり、例えば、お寺、神社を建てる時に、誰もこれから千年持たせようと考えて建て

小布施まちづくり委員会 講演・意見交換会

11月24日(金) 18時30分~21時30分(受付18時~)

小布施町公民館講堂(町役場3階)

第1部(18時30分~20時) 講演会「なぜ? 小布施が!」

第2部(20時~21時30分) 意見交換会 質疑応答

参加費 第1部(講演と意見交換) 参加無料・予約不要 第2部(交流会) お一人2,000円(飲み物別付)

主催:小布施まちづくり委員会 協力:小布施町、小布施町教育委員会、小布施文化観光協会



飯沼 正治さん

定任促進を考える部会

幸福な未来への第一歩

幸福な未来への第一歩 角柴”の時代のまま変わっていき、誰が良い町だと言っているのか。正しいこと、本質を見抜く努力の大切さについて。日本の、その中の長野県という場所に暮らしているというの、とても恵まれているということ。人生99年の「田中

的な方法を探ることも、これからの重要なテーマになりそうです。

カフェ・ホストより

今回のワークショップはワールドカフェという形式で行いました。その名の通りカフェのようなリラックスした雰囲気の中で、メンバーの組み合わせを変えながら少人数のグループで話し合いするもので、あたたかも参加者全員が互いに話し合っているかのような効果があります。いろいろな人と直接話をするのができて、いい刺激になった」と好評でしたので、また開催の機会を持つのも良いかもしれません。(4pに写真)

人が生きているイメージの世界が、いかに現実とかけ離れているか。正しいこと、本質を見抜く努力の大切さについて。日本の、その中の長野県という場所に暮らしているというの、とても恵まれているということ。人生99年の「田中

共育を考える部会

成田先生の「今日からはじめるよい脳の育て方」

子どもの脳の発達には親や周囲の大人の生活に強い影響を受けます。それは毎日繰り返される刺激により脳

部会長 市村良江

重なり、加速度を感知する「平衡感覚」などから生まれます。これらの感覚は「早寝・早起き・朝ごはんや遊び」の基本的な生活習慣が大切となってきます。まさに子育ては脳育

交流を考える部会

餅つきとお絵かき大会

12月15日(土)の早朝から当日の準備が始まりました。まずは、前夜のうちに用意されたもち米を炊くためにすでに大量に用意された薪を集めてこれを燃やします。炊き上がるまでに小一時間要する。三々五々集まり始めた交流部会員の間に他愛ない会話が始まる。

部会長 見海勝利

一方では、藤岡画伯による「お絵かき教室」がすでに始まっている。毎年このながら、画伯は大変な工夫を凝らしてくださる。昨年は干支を題材にされたが今年は大きな木にクリスマスツリーを描かれるようだ。餅つき大会が終われば余すところは「多文化交流だけとなる。これもまた楽しい企画で水餃子を定番として、ほかに一品、世界各国の料理を味わう、という試みである。楽しみが続く。

福祉を考える部会

自分史・未来日記を身近に

台風19号により被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。ボランティアなど多くの支援の手が入っていますが、完全復興までにはまだまだ時間が必要なようです。

部会長 花村一二

さて福祉部会では「自分史・未来日記」について、住民にいかに関心を持って

が、自身の未来を充実したものにするためにはしっかりとした目標を持つことだと思っております。ただ現実社会の中に居ると、いつの間にかその夢も忘れ毎日を生きる事だけに囚われてしまい、それこそ夢も希望も無くなってしまいます。ここ何年か須高管内の研修などでは「エンディングノート」や「終活」をテーマにした内容が多くなってきて

今年度のおおせ未来共育会議は、長野県教育委員会や長野県立大学など多くの後援を受け、来年2月11日

安全を考える部会

救急・災害復興活動の新たな課題

今回の台風災害については部員一同心からお見舞いを申し上げます。

部会長 塩尻利一

3年前、伊勢町の日さんはバトミントン練習の合間に汗を拭きながら突然倒れ、心肺蘇生を必要とする状態となった。周囲の方々が緊急対応の結果、AEDを用いて心肺蘇生が図られ、現在お元気で活躍されています。彼は、今年6月、町の総合防災訓練の心肺蘇生AED活用訓練中、「町にもっとAEDを」と語られ、部会でも詳しい話を伺いながら、11月21日、「白馬村の断層地震の5年 報告会」に参加しました。子の災害で死者が出なかったのは震度7での災害で珍しく、日ごろの村民防災意識の高さが評価され、これまでの災害記録が町のアーカイブ編集を促進しました。

環境を考える部会

共育部会と一緒に、小学校で小布施丸ナスの栽培とお焼きづくり

環境を考える部会の栗原宏幸です。2年余り前小布施にUターンして農業を始めたときに縁があったこの部会に参加させていただ

副部会長 栗原宏幸

環境を考える部会の栗原宏幸です。2年余り前小布施にUターンして農業を始めたときに縁があったこの部会に参加させていただいています。私たちの部会では家庭ゴミ減量化の観点から微生物(菌ちゃん)を利用した生ゴミ堆肥の普及に取り組んでいます。私たちが家庭ゴミ減量化の観点から微生物(菌ちゃん)を利用した生ゴミ堆肥の普及に取り組んでいます。今年には更に共育を考える部会の皆さんと一緒にそのナスを使ったお焼き作りにも挑戦しました。子供達と一緒にゴミのごみや、野菜を「育てて」それを「食べる」ことについても考えています。また一般の皆さん向けにこれまで数年間、六次産業センター敷地内の「菌ちゃん農園」において生ゴミ堆肥を使った菌ちゃん農法のワークショップ、そして秋には「菌ちゃん農園まつり」を開催し、菌ちゃん農法を通じた生ゴミ減量化の啓蒙に取り組みで参りました。次年度からは小学校での活動を更に推し進め、より多くの皆さんに関わっていただけるよう発展していきます。また食と農業に関する問題提起を通じて私たちを取り巻く環境について考えていただくために講演会なども企画しています。

